

## 境界性パーソナリティ障害傾向者における 家族機能と BPD スキーマの関連性

### Relationships between family functioning and BPD schemas in individuals with borderline personality disorder features

松野 航大 (Kodai Matsuno) 指導：根建 金男

#### 問題と目的

境界性パーソナリティ障害 (Borderline personality disorder: BPD) とは, DSM-IV-TR (APA, 2002) では, 第Ⅱ軸, クラスター B群に含まれるパーソナリティ障害である。本研究では非臨床群におけるBPD傾向者を対象とした。

Young et al. (2003) は, BPD傾向やBPDの中核には早期不適応的スキーマがあると指摘し, BPDには7つの早期不適応的スキーマ (BPDスキーマ) が特徴的であると述べた。このBPDスキーマはBPD傾向と強い相関があることが示されている (Schimid et al., 1995)。また, BPDスキーマの維持要因としては, 家族機能の影響が想定されるが (Gunderson, 2001; Miller et al., 2007; Young et al., 2003), 現在までに, BPDスキーマの維持要因として家族機能の影響を検討した研究は行われていない。

そこで, 本論文では, BPDスキーマの維持要因として, 家族機能を取り上げ, BPD傾向者における, 家族機能とBPDスキーマとの関連性を検討することを目的とした。

#### 研究1

**目的:** Young et al. (2003) のスキーマ理論に基づく, BPDスキーマ尺度を作成し, その信頼性と妥当性を検討する。

**方法:** 首都圏内の大学生438名 (男性: 230名, 女性: 208名) を対象とし, 質問紙調査を実施した。平均年齢は19.96歳 ( $SD=1.34$ ) であった。測度は, 梅原 (2010) の日本語版 Young schema questionnaire (YSQ) から, BPDに特徴的なスキーマを示す7つの下位尺度を抜粋したもの (BPDスキーマ尺度), ボーダライン・スキーマ質問紙 (BSQ; 井沢, 2005), 日本版Personality diagnostic questionnaire-Revised (PDQ-R; 切池・松永, 1995) のBPDを測定する下位尺度, the Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D; 島ら, 1985) を用いた。

**結果と考察:** BPDスキーマ尺度全体と, 罰スキーマを除く全ての下位尺度において, 十分な信頼性と妥当性が確認され, 見捨てられ/不安定スキーマ, 不信/虐待スキーマ, 情緒的剥奪スキーマ, 欠陥/恥スキーマ, 自制と自律の欠如スキーマ, 服従スキーマの6つの下位尺度を本尺度とし, 罰スキーマを予備尺度とするBPDスキーマ尺度が作成された。

#### 研究2

**目的:** BPD傾向者における, BPDスキーマの維持要因を家族機能の観点から検討し, 家族機能とBPDスキーマの関連性を検討する。

**方法:** 首都圏内の大学生443名 (男性: 231名, 女性: 212名) を対象とし, 質問紙調査を実施した。平均年齢は19.95歳 ( $SD=1.33$ ) であった。測度は, 家族アセスメントインベントリー (FAI; 西出, 1993), BPDスキーマ尺度, PDQ-RのBPDを測定する下位尺度を用いた。

**結果と考察:** 構造方程式モデリングによるパス解析を行った。その結果をFigure 1に示した。

家族組織の柔軟性・構成度と家族内の秩序・ルールから, 不信/虐待スキーマおよび自制と自律の欠如スキーマに負の影響が示された。この結果より, 家族内の規範やルール, 役割がはつきりしない無秩序な状態で家族が固定化している場合, その家族機能の不全が, 他者への不信感の高まりや, 自己統制力・欲求不満耐性の未学習を引き起こし, その結果, 不信/虐待スキーマおよび自制と自律の欠如スキーマが維持されるということが示唆された。加えて, 親密で自由な家族内交流と家族組織の柔軟性・構成度が, 欠陥/恥スキーマに負の影響を与えていた。家族内でのコミュニケーション不全が維持され, 問題解決の方法も不適切なコミュニケーションによって行われている場合, 欠陥/恥スキーマが維持されるという可能性が示された。

また, 不信/虐待スキーマ, 欠陥/恥スキーマ, 自制と自律の欠如スキーマがBPD傾向に正の影響を示したことから, 非臨床群のBPD傾向者においては, それらのBPDスキーマが特徴的であることが示唆された。

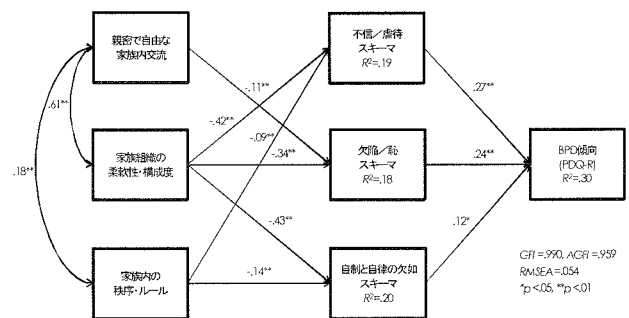


Figure 1 パス解析の結果